

生物資源科学部だより

編集・発行 / 島根大学 生物資源科学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 URL: <https://www.life.shimane-u.ac.jp/>
TEL: (0852) 32-6493 FAX: (0852) 32-6125

Vol.37

発行 2023年 6月

学部長より保護者の皆様へのご挨拶

生物資源科学部長 上野 誠



新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから3年以上が過ぎ、大きな影響をうけた社会経済活動も再開に向けて動き出してきております。私たちの生活もWithコロナと変わっているのを感じる事が多くなってまいりました。島根大学では4月から学内でのマスクの着用は個人の判断となり、これまで規制のあった教室定員も廃止となりました。講義室への100%収容が再開し、対面授業が基本となったことで、オンラインでは難しかった、学生同士のコミュニケーションも高まる事が期待できると考えております。

昨年度は、コロナ禍で開催が難しかった保護者等との面談についても再開に向けて、準備を進めております。

これからは、本格的にポストコロナ時代が始まってまいります。世の中の仕組みや人々の考え方が大きく変わってきており、本学部も時代の大きな変革から取り残されないように特色ある研究やここにしかない学びを強化していくことになっております。

理学部と農学部を融合して設立された生物資源科学部もまもなく30年目を迎えます。これまでに本学部の強みである自然豊かな島根のフィールドを中心とした研究・教育により、社会で活躍する多くの卒業生を送り出すことに成功しております。今後も本学部の学生が新たな時代を生き抜く力を生物資源科学部で身に付け、社会で活躍できる人材となるように教職員一同で取り組んでまいりたいと思いますので、生物資源科学部の活動にどうぞご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和5年度入学式が挙行され204名が入学

4月4日(火)、令和5年度島根大学入学式が松江市総合体育館にて行われ、生物資源科学部に204名、大学院自然科学研究科(生物資源科学系)に60名の新入生が入学しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から新入生のみの参加でしたが、今年度は4年ぶりに保護者も参加可能となりました。式では、服部学長の式辞、来賓の祝辞、入学生代表の宣誓、お手本となる先輩学生の表彰が行われました。

午後には、新入生が一堂に会した学部全体のオリエンテーションが実施され、大学生活がスタートしました。



研究トピック 日本沿岸のマイクロプラスチック

勝手 泰治さん、齋藤 淳也さん、長門 豪助教

環境共生科学科

マイクロプラスチックは、端脚類などの小さな分解者によって摂取される可能性があり、食物連鎖に影響を与える可能性があります。環境共生科学科4年生の勝手泰治さん(現九州大学大学院)と齋藤淳也さん(現北海道大学大学院)、長門豪助教は、日本沿岸環境に生息する端脚類におけるマイクロプラスチックの存在量、化学組成、大きさを明らかにしました。

Katte Y, Saito J, Nagato EG (2023) Abundance and characterization of microplastics in amphipods from the Japanese coastal environment. Environmental Science and Pollution Research 30:35505–35512.

<https://doi.org/10.1007/s11356-023-25878-w>



学 科 の 様 子

生 命 科 学 科

生命科学学科では、2、3年次に多くの専攻科目と実験・実習・セミナーが開講されているため、講義で得た専門知識を実験・実習等で自ら手を動かして行ったり体験したりすることで効果的に修得することができます。3年次後期からは各研究室に配属され、高度な機器も使いながら教育研究活動を行います。必携化されたパソコンを授業やセミナーで利用することも増え、ここ数年間で蓄積されたオンデマンド教材も効果的に利用することで、より充実した教育を行っています。

1年生は、生命科学基礎セミナーⅠで4つのグループに分かれて全てのコースの教員の指導を受け、2年次のコース選択に向けて各コースの研究内容について学んでいます。2年生は、各コースの興味関心のある授業や、必修の実験・実習の受講を通して、これまでよりも深い学びを実感しています。3年生は、関心のある研究室を訪問するなど、配属に向けて研究室の情報収集に余念がありません。4年生は、将来の目標に向けて就職活動や大学院進学に向けた準備をしながら、卒業研究にも取り組んでいます。



1年生の生命科学基礎セミナーⅠの研究紹介の様子

農 林 生 産 学 科

農林生産学科では、4月6日から授業が始まりました。今年度より新型コロナウイルスの感染対策が大幅に緩和され、ほとんどの授業が対面形式に戻りました。キャンパス内には多くの学生が行き交う様子が見られ、本来の活気ある姿が戻ってきました。

農林生産学科の1年生は、4月5日の学科オリエンテーションに参加しました。オリエンテーションでは、学科の説明や各自ユーモアを交えた自己紹介が行われ、明るい雰囲気の中で大学生活がスタートしました。2年生は4つのコースに分属が決まり、これから実験や専門科目を通じて専門的な学びを深めていくことになります。農業経済学コースの2年生は、5月に飯南町獅子地区で行われた田植え体験に参加しました。3年生は、卒業研究のための実験や演習に加え、就職活動、大学院進学の準備などを行っています。4年生は、大学生活の集大成である卒業研究に取り組んでいます。教員一同、各学生にとって実りある1年になることを強く願っております。



田植え体験の様子
(5月3日、飯南町獅子地区)

環 境 共 生 科 学 科

大学では対面の授業を主体としながらも、オンラインツールを活用してより良い学修を目指した授業も行っています。新入生は、オリエンテーションや初年次教育でパソコンを利用したオンラインツールの使用方法を学び、これからの授業に備えています。また、2年生以上では、学年に応じた専門的な講義や実習がスタートしました。

1年生は5月に野外実習も行われ、島根大学三瓶演習林や志津見ダム、宍道湖周辺を見学し、島根県の自然環境について学習を進めました。2年生は4つの教育コースに分かれ、それぞれのコースの専門的な講義や実習・実験を受講しています。3年生は通常の講義に加えて、研究室に所属して、卒業研究に向けての準備がスタートしました。本格的な実験やセミナーなど、これまでの授業とは異なるより主体的な学修活動に取り組み始めています。4年生は進路選択も考えつつ、各教員の指導の下で卒業研究をさらに深く掘り下げる段階になりました。セミナーの時間外でも研究室の仲間と意見交換を続ける光景も見られ、活き活きとしています。



1年生野外実習の様子
(5月20日、島根大学三瓶演習林)

大学院への進学を薦めています ～大学院で学びを深めませんか～

生物資源科学部で学んだ後は、より高度な研究に取り組み、高い技術と専門的な知識を深めることができる自然科学研究科への進学を推奨しています。大学院で学ぶことにより、さらに学問の深みを知り、学会発表や論文作成を通して、自身の研究成果を発信する機会が得られ、自分の能力を大きく磨くことができます。大学院を修了した後はより専門的な職種に就くことができます。



↑
入試情報はこちら

「ここにしかない学び」

フィールド教育プログラム～森林から耕地、海へ～は、私たちの生活が自然との共生の中で成り立っていることへの理解を深め、地域に貢献できる人材養成のための「特別副専攻プログラム」です。生物資源科学部附属生物資源教育研究センターの三瓶演習林、本庄総合農場、神西砂丘農場、隠岐臨海実験所でのフィールドワークを中心に「森林から耕地、海」に至る物質の流れ、基礎的概念、現状と課題について、総合的に理解することを目的としています。